

## 10年ぶりに登場！ 大型エイ「ナンヨウマンタ」の展示を開始しました。

海遊館(大阪市港区)では、2024年11月13日(水)より、「ナンヨウマンタ」の展示を開始しました。本種の展示は10年ぶりとなります。



ナンヨウマンタ



エサを食べる様子

ナンヨウマンタは、成長すると体盤幅(両胸鰭間の長さ)が4m以上になる、大型のエイの仲間です。今回の展示個体は、2024年9月18日(水)に高知県土佐清水市の定置網に入網し、同日に海遊館の研究所「大阪海遊館 海洋生物研究所<sup>いぶり</sup>センター(高知県土佐清水市 以下、以布利センター)」で餌付けや健康管理を行ってきました。

2024年11月12日(火)夜間に海遊館「太平洋」水槽へ搬入し、翌13日(水)より一般公開しています。現在は同水槽で暮らすジンベエザメや近縁種であるイトマキエイとともに、水槽内を優雅に泳ぐ様子を見せてくれる他、毎日10:30と15:00に実施している「お食事タイム」では、水面まで浮上し飼育員が柄杓で与えたエサを食べる様子をご覧いただけます。

今回の展示により、日本国内で「ナンヨウマンタ」を飼育展示している水族館は3館となります。海遊館は本種の展示を通し、生き物や自然環境に興味を持っていただく機会を提供したいと考えています。

### 本件に関する広報連絡先

取材や素材提供をご希望の場合は下記までご連絡ください。

**海遊館広報・宣伝チーム 06-6576-5529**

## 【 展示個体について 】

- 性 別:オス
- 体盤幅:2m40 cm
- 体 重:約 100 kg

## 【 ナンヨウマンタについて 】

- 英名: Alfred manta
- 学名: *Mobula alfredi*

成長すると体盤幅が 4m 以上になる大型のエイ。オニイトマキエイと同種とされていたが、2009 年に別種であることが確認された。頭緒(とうき、あたまびれ)を広げることで、プランクトンを効率よく摂食する。主に沖縄以南、インド太平洋の温・熱帯海域に生息し、高知県での目撃情報は稀。IUCN (国際自然保護連合)のレッドリストでは「危急種 (VU)」に指定されている。



## 【 イトマキエイについて 】

- 英名: Spinetail devilray
- 学名: *Mobula mobular*

世界中の熱帯、亜熱帯海域の沿岸から外洋まで分布する大型のエイで、体盤幅は約 3m。漁獲による生息数の減少が示唆されており、IUCN (国際自然保護連合)のレッドリストでは「絶滅危惧種 (EN)」に指定されている。外洋域に生息することや飼育例の少なさから研究が進んでおらず、生態に謎が多い。2008 年に海遊館が世界で初めて飼育展示に成功した。



## 【 ナンヨウマンタとイトマキエイの見分け方 】

ナンヨウマンタとイトマキエイは、どちらも「イトマキエイ属」に属する近縁種です。口の形状や位置、背中中の模様などで見分けることができます。

### ■口の形状、位置

ナンヨウマンタの口は幅が広く、頭部前方に位置しています。イトマキエイの口はナンヨウマンタと比べて幅が狭く、やや腹側に位置しています。



ナンヨウマンタ



イトマキエイ

### ■背中中の模様

ナンヨウマンタの背中は黒く、頭部にハの字型の模様があります。イトマキエイの背中は藍色で、頭部に黒い帯状の模様があります。

